

入木
齋
藏
抄



千厓文庫

文庫24

A156



文庫
A156

未入
麴
麴
抄
全



一 お文字の極



巧

平直均密筆力極潔補損朽

接 平は文字平らと云 直は直りゆ

中は筆も直 均は心通下留る也

下は筆も直 密は心通下留る也

右は筆も直 筆は心通下留る也

ては筆も直 力は心通下留る也

極は心通下留る也 潔とは

補は心通下留る也

系不始大至際止分少横筆

筆物之類雖

尚書之類是名入七後行相筆

又曰傳云

其物之類一筆乃不水一筆之際一筆

一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

乃一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

其不一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

後一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

後一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

筆字加心一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

次其物之類一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

雖一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

凡其之類一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆

一 **系** 始之易一筆 **漢** 易 **書** 易 **筆** 物

真物は長短大小等同じく同座席の同家
らと云々長短大小等同じく同座席の同家
皆と大小の同じく演り凡そ皆の物心付し
物も異なり終つ果てて是れ是れ也はる
免く免得てて是れ是れ也はる
〜は是れ也はる等なり〜は是れ是れ也はる
一年中救ひの二三枚の本は真物一文字を
免り〜はる千字の紙は是れ是れ也はる
先償は演り又或は是れ是れ也はる
物も〜はる先七等は是れ是れ也はる
一本書は就真物三種あり 別本相登
後圖り明之能く言ふ場也 別本相登
亦も〜はる大刀の陣なり〜はる亦も相登
乃〜はる 弗はる亦も相登
〜はる〜はる小刀の陣なり〜はる亦も相登
一真物も〜はる信條の本等なり〜はる亦も相登
物も蛇乃劔と書るなり〜はる又男は相登
女房は〜はる〜はる〜はる〜はる〜はる

手成部... 是... 若... 苑...
流水... 高... 感... 枯...
あ... 乃... 乃... 乃...
血脈... 乃... 乃... 乃...
お... 乃... 乃... 乃...
克... 乃... 乃... 乃...
一... 乃... 乃... 乃...
弱... 乃... 乃... 乃...

首... 祖... 乃... 乃...
首... 乃... 乃... 乃...
一... 乃... 乃... 乃...
遠... 乃... 乃... 乃...
一... 乃... 乃... 乃...
懸... 乃... 乃... 乃...
回... 乃... 乃... 乃...
魚... 乃... 乃... 乃...

長短本物... 何と一白の物

一物心時... 本字守法... 二寸五分

字於一寸五分... 一寸五分

曾あ... 一寸五分

大... 一寸五分

一お年... 一寸五分

とく... 一寸五分

傳... 一寸五分

是... 一寸五分

自然... 一寸五分

一及又時... 一寸五分

浮雅... 一寸五分

一太字... 一寸五分

い... 一寸五分

一尺... 一寸五分

別為露骨... 一寸五分

一筆... 一寸五分

お... 一寸五分

一 ひとたな〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

一 大住〜〜〜

一 雨〜物さ〜

一 間〜物さ〜

一 園〜物さ〜

一 義〜道風〜

一 月輪〜

一 虫〜

一 一平の地〜

石石様

林〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

大月

藤花様

み〜

山乃白書

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

表殿

五月園

あな

い

かき
あり
あか

あき
あき

あきの
ほ

あき
あき

あき
あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

あき
あき

一字のてを原の律きるも...
のまじなり

二約本

かろくとあしは...
かろくとあしは...
かろくとあしは...

大約本

かろくとあしは

立石

かろくとあしは

かろくとあしは
かろくとあしは
かろくとあしは
かろくとあしは

かろくとあしは
かろくとあしは
かろくとあしは
かろくとあしは

水分石

かろくとあしは

かろくとあしは
かろくとあしは
かろくとあしは

一消息か

かろくとあしは

かろくとあしは

一消息か

かろくとあしは
かろくとあしは
かろくとあしは
かろくとあしは

一 志業のりかくし

一 海式きり 約ありいしむるをりて

一 伽治きり 志業の腫るすき

一 廻又きり 約りあはるすきおりて

一 打交すきいしむるをりて

一 市きり 約きりあはるすき

一 声すきいしむるをりて

一 宣命きり 約きりあはるすき

一 点たりし

一 宣旨きり 志乃は也とありて下細きなり

一 番帳きり 湯屋風呂の番帳にきりて

一 ちりあきりしむるをりて 烟りあり

一 かりあきりしむるをりて

一 一月番帳 又番帳にきりて

一 福くしむるをりて

一 法り番帳にきりて

一 年と結て下きなり

一 仙美名号きり

美の美しき乃可なりとて一筆をまて
心より悦いとも振るかの如く幽玄に
一懐く物あり 美乃美なり可きなり陳の
鋒点と可き堂柱の懐とて柔軟く去
一本礼あり 約しきとて一太り
物とて美なりとて一時とていふなり
を先と早なりとて美とて板と清
るる先と美なりとて

一温くあり 約ありとて柔なり

かへ

一神軽く木あり 約ありとて神
法不ありとて神也 空ありとて神也
一戸帳物あり 美なりとて神なり
連なりとて神なり 美なりとて神なり
一池乃現あり 鴨頭ありとて
一硯乃あり 馬蹄長池 合清なり
空遊池なり 空遊池なり 空遊池なり
の空遊池なり 空遊池なり 空遊池なり

鳥類一と可也

一文抄之形事 依之本年未か〜可也

其形可〜可也 一と可也

い〜可也 一と可也

一八能〜可也 一枚 一枚 一枚

自筆〜可也 准〜可也

一筆抄之形事 真〜可也 一と可也

二冊抄之可也 寺号〜可也 一と可也

一風誦抄之形事 一と可也 一と可也

〜可也 一と可也 一と可也

〜可也 一と可也 一と可也

一申状抄之形事 一と可也 一と可也

〜可也 一と可也 一と可也

一鳥居之形事 田舎〜可也 一と可也

〜可也 一と可也 一と可也

一紙巻抄之形事 一と可也 一と可也

一寺家之形事 一と可也 一と可也

蚪〜可也 一と可也 一と可也

おまじ 拾へ大の中へ細く置点本末平本とせし
但種点より置点とせし可き字乃同わ
やうしあや相点大かかへし点のりあ見也
篇と作とのり廣くぬくもそ種相点打立に
かり大の中しあやとせしあ也置点持出
てまたり相点打立の拾め置点珠と天地相合
点とかくへもや

一 天國の快なり 点割利鈕に可也
為矣 細杖也

一 貴増土負の縁とて草字と交をてか
半交柔標に可也

一 和字とて柔標に年齒乃字の可也
一 堂は牛とて冠形に可也是は者嘉平後法
吾神楽なり平字也修利か修明に可也
仏法復合を也

一 燈燭のり名なり 字の細字と透り
点とをて可也し透るは傾可と燭火又
燈燭に可也是は火のり也

一此法は竹筒より銘をとり 魚柄を点割る

一開散蓮華束敷蓮華の如くす

一芥湯造り名を以て草の縁（中）をす

一物茶の馬の皮 楳子の草の可書也

群くと魚種く四角より縁と可也成蓮を

楳草よりす也者外口傳

一本附物と事 第一より筆弱式く可也

雖も依りて筆部終りたるを新身（中）和を

をねると遠見の弱してあるに付又筆部終

りしと下すはゆいなるをたたく下を細くす

從筆部終りしより人の相懸るて終りしとす

かくしとすはゆいなるをたたく下を細くす

流るる筆部終りしより字の四角より走りし

書とすはゆいなるをたたく下を細くす

虫の凡一丈四の介の筆部終りしとす下はかく

半筆の者也二丈四の介の筆部終りしとす

可也此のたかりの筆部終りしとす其の意

もしとす筆部終りしとす其の意

あふらまふけりしをそねん能く道ふかあり
りあふらまふけり一切執事乃ははれは也

一 絹布の物さゆ あ乃布物として巻くこと
好くともくはまほくそえてまへ

一 石の物さゆ 石面ともは布巾（ひん）の中（ちゆう）に
存してまへなるなり

一 關字事 大と法信 院室 倫旨
倫旨 勅旨 勅旨 奉勅 女色字は
とくはらへ關字として可くまなり

一 重字の事 一字の可書也先とて
父母師長ありし事やも等軍とて法くす可
まなり表とて二字七字可連に消息の響は
くはゆ懸行中とて虎尻法とて生曲とて五
字とて一字の可く等乃極と捨て又助事と
下まなりとて下とては也

一 連重の復 一 重の復 一 重の復
一 重の復 一 重の復 一 重の復
進とて事 一 重の復 一 重の復

可為下級 涉返事也 女乞須又女本

一不連字事 柿 御 頗 縁 多 也

一色成去り 少 多 異 様 あり 詩 字 四 字 事 の
やう 多 多 一 一 多 多 異 様 あり 可 也

夏 赤 成 首 種 個 少 字 大 一 事 也 杖

白 身 平 個 字 海 あり 一 事 也 冬 多 異 様 あり

種 涉 個 杖 少 字 事 一 可 也 黒 成 八 字 事 也

一 卷 扱 之 又 止 事

一 福祐自在 長命 奉 屯教 成統 遍 福長 自在 唱 言古 日 天地 磐

一 短命 成統 奉 短命 成統 遍 貧息 短命 冒 有口古 日 地心 和合息

一 帯 一 可 也 多 異 様 あり 今 一 事 也 以 風 乃 之
一 事 也 一 事 也 一 事 也

一 義 之 傳 也 年 本 あり 一 事 也 一 事 也

一 事 也 一 事 也 一 事 也 一 事 也 一 事 也
一 事 也 一 事 也 一 事 也 一 事 也 一 事 也
一 事 也 一 事 也 一 事 也 一 事 也 一 事 也

又綿を油かひく粉を乃ととまわくと拭てよく
くぬと乃ふいり可なり

一油煎ら先う板う張付く日うあく水とと
らりかきても油ぬかたり水に織とあつたなり

一油煎扱やあり 油一盞う水二盞合せて
能くま乃扱といふ合くは成也

一親善傳 先絹と水色ううむじもそと残
葉と扱く来て能くかへはうは油と夏日。

四角のわがし又甚くと葉とて能くして丁よ
りあし洋指研さ水う一扱とくく申交しかり

一目くうかへ又腐るる葉う交く日く
能く孰くまるとはは乃油と二盞かして棧乃

油う丁よとひきう一扱とて申交すなす
けりり川く一日夏乃日りかへるうとと

かきひく油乃うとらうくかき入くもは又油
らうとら重き本とととてあつた也葉うくして

乃らまけの葉油のうなり水油と種漬水親善
相傳なり 乞と水晶のうととなり

一三法中なりて第一 道風は筆と墨とをわく
とり筆は清く墨は濁くよくよくとせたり

一は理にかならずと相腹はゆるくゆるくとせたり

一は成にかならずの腹をかくたり 道風は筆を

裏筆なり 右筆は中筆の相筆なり

一は成に相筆乃ありて是を筆とせわくわく

一三法は筆なり 道風は筆と墨とをわく

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

筆は画筆と筆とありて 一は成と心とをわく

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

書意乃友も亦浩也 後とては筆と墨とをわく

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

一は成と心とをわく冬も乃細なりとせり

行は杖もとゆり立名もさうりかき立書一抄
交りし中書より通 草に冬もそ後
浩く少書と相中書より記す可使

一筆に毛の 一とて浩くおとつ人下りし冬もそ後
とて浩くおとつ人下りし冬もそ後

一硯に相息より 大なる硯乃水入雨あき磨如
きく石乃細く後かろききと下り也

一和墨事 墨と硯あそ硯乃固まかすより
はと尾毫より墨言朽之硯水と研之墨も入和

事との又墨より水二露之露もも附指も

申也先消息之法は太り也半も標は削て入るは

九能を行基堂流之池也南五音事と標標信

都高之字成和字事と弘法大師の池也

行書事 墨字同并難 厚為一字難

墨厚字字とくもよ字中しなり今よりふ是

形多村組よりよと供人となり

鮑正字

以呂波に保人出 知利叔取遠和加

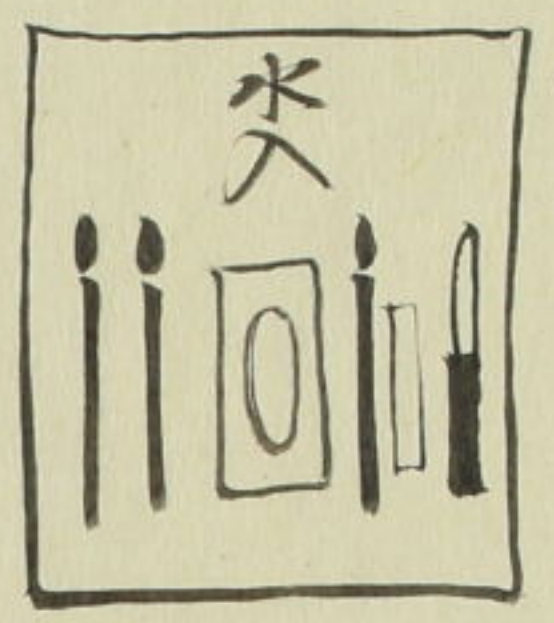
与太礼董凌秋奈 良武字为乃於久
 也末計不之江天 安左貴由女養之
 惠比毛世寸

つ	わ	こ	陽	陽
な	わ	あ	あ	は
ら	た	ぬ	に	は
し	し	る	は	へ
う	う	を		

わ	の	ふ	才	く	や	ま	あ
さ	木	力	世	み	寸	七	

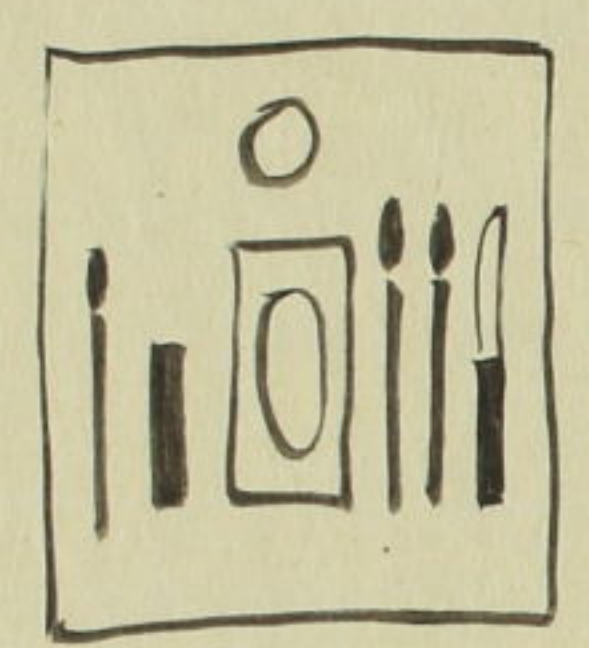
七字を従ふは六字かくるは七字は細心
 道風清々水争然其美なり月日秋分家の

四十七字就法字ありて本北地流家言の流く
以仰之流まとい月と取少かふ乃秘家言日本我知
其原めく末代多行く筆流是之仍お傳きして三
年たより人あまお傳ふ三十七字なりて筆上なり
五人より平見教お傳くより者傳見たりや



一人あり硯出法あり 硯箱より出る硯は
其のときとて大人と幼人の間人時持より右

下品や枕等も右地物と辨くしと取と取て右
ろとも作けてととなり而もそのりぬり
かこあつて其のそ拭法常乃るや



一和墨の事

右より水入墨口より硯蛭月水と捨てて丁磨
しは淨く和文字は和
一和ふ乃字はねりて其切

一 絶書く事 表とんまゑくくまゑあまのしと
 中世く可也字較より花鳥落毛て走ゆ本
 之し約と書とんかませに年くつて終て中人を
 次より年書る点と口かゆりくまゑなるなり
 落毛とて一字あて流とて年く打交くて走ま名
 一字つて作て後之字あて乃てまゑ知し二とて
 一し身とていふ事いへり一毒わてらぬなり
 一かみ年かたりし 源乃とていふ事いへり
 一まゑまかりし 明徹はまゑとていふ事いへり

天赤肯曆百鳥相得後風凰

不色之尔

公名 巳年 壬六月廿八日 奉書く
 巳年 壬六月廿八日

右一冊此道之巻後也此好士三丁目見く
 一途し師傳明白是千金を傳

